

# JA やつしろドローン防除受委託の取組事例の紹介

## 1. JA やつしろについて



JA やつしろ ひかわ営農センター内カントリー施設

正式名称：八代地域農業協同組合  
 代表理事 組合長 山住 昭二  
 所在地 〒866-0043 熊本県八代市古城町 2690  
 組合員数正組合員 6,509 名 ・  
 准組合員 3,736 名  
 合計 10,245 名  
 ※令和 2 年 3 月 31 日現在  
 URL <https://www.ja-yatsushiro.or.jp/>

## 2. 水稻栽培における現状と課題

JA やつしろは県内でも有数の水稻産地である。JA では水稻栽培において作業の効率化とコスト削減を図るため防除作業を JA が窓口となり生産者から防除作業を受託し外部の専門業者に作業を依頼している。しかしながら、ドローン防除の受託業務において表.1、図.1 のと

おり業務プロセスに複数の関係者が複雑に絡んでいるため、紙と電話で業務管理することが大きな負担になっている。

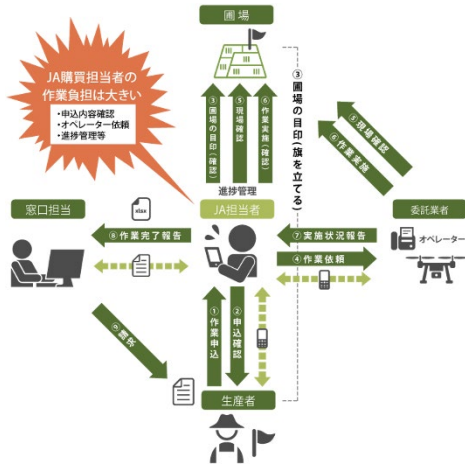


図 1

(表.1 ドローン防除の委託業務の業務プロセス)

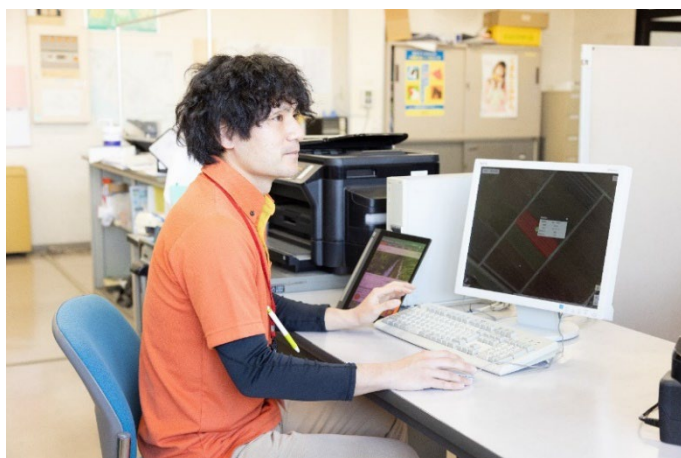
作業内容	生産者	JA購買担当者	委託業者
①委託作業の申込	●	○	
②申込内容の確認	○	●	
③圃場の目印	○※圃場に立てる	○(旗の確認)	
④作業の依頼		●	○
⑤現場の確認		○	○
⑥作業の実施		●	○
⑦実施状況の報告		JA営農指導員→JA窓口担当 (JA担当者)	
⑧作業完了の報告	○	●	
⑨請求			

●依頼者 ○承諾者(作業者)

表 1

とくに、圃場の位置特定が困難で農業者と JA の担当者とともに委託業者が現地圃場に行き圃場位置と白地図とを照合し防除する圃場位置を確認しなければならず農業者・JA 担当者・委託業者の大きな負担になっている現状がある。

### 3. FarmBox を利用した新たな取組で作業負担を軽減



そこで、JA やつしろでは 2018 年から導入している営農支援ツール FarmBox (※ 1) を使い作業進捗管理に活用している。

効果として作業現場では、委託業社が圃場データの位置情報を利用して、当該受託圃場を探す手間が効率化したことに加えて、受託業務が未完了の圃場を探す際にも非常に便利になり作業負担

の軽減に繋げることができた。

### 4. 新たな取組課題の解決に統合農地 API を利用



取組を実施するにあたり課題として事前に受託した全ての圃場をマッピングする必要があった。通常、圃場マッピングは住所情報からの自動マッピングは難しく現場に行き登録する必要があり担当者にとって大きな作業負担になっており、さらに登録データは関係者との共有が困難で同じ情報を複数回登録する必要があった。

今回、WAGRI 上で提供されている統合農地 API (※ 2) を利用し住所情報だけで正確に位置情報とポリゴン情報をマッピングすることに成功し大幅な作業負担軽減に繋げることができた。統合農地 API でのマッピング割合は 90% 以上で整合性も高く大きな効果を発揮した。



※1 ファームボックスは主に JA や農業者グループなどが情報共有のために組織で利用するアプリケーションです。

農業の現場で紙ベースだった情報や、分散されていた情報をデジタル情報として集約し産地全体で共有することで「見える化」だけでなく目的に合わせて情報活用できる農業専用の「業務改善サービス」です。

参考 URL : <https://soft-build.co.jp/product/farmbox>

※2 統合農地データとは農研機構：農業情報研究センターが WAGRI に提供している API です。 土壌図と農地ピンさらには筆ポリゴンを組み合わせた情報をパッケージ化しており利用者は一度にまとめてこれらの情報を取得可能です。